

## 平成 24 年度 第 2 回長野市総合計画審議会 会議録

日時：平成 24 年 8 月 10 日(金) 15 時 00 分～17 時 15 分

会場：長野市役所 第二庁舎 10 階 講堂

### 1 開会

(事務局)

定刻になりましたので、これから平成 24 年度第 2 回長野市総合計画審議会を開会いたします。私、本日の進行を務めます、企画政策部主幹の高橋と申します。よろしくお願いいたします。

本日の会議であります。本市の指針として、公開で開催することとまいりますので、ご了承ください。

また、藤本光世委員におかれましては、所用により 1 時間ほど遅れることについて、ご連絡をいただいております。

ここで、資料の確認をお願いしたいと思います。本日の資料は、事前にお送りしました資料が 3 点ございます。

平成 24 年度 第 2 回長野市総合計画審議会 会議次第、平成 24 年度 第 2 回長野市総合計画審議会 資料集、第四次長野市総合計画 前期基本計画実施状況(報告)を、配布させていただきました。

また、7 月 24 日付けで、本日の会議開催についてご通知申し上げましたが、その際にお送りした資料として、第四次長野市総合計画 後期基本計画(冊子)、第四次長野市総合計画 後期基本計画 概要版、平成 24 年度 長野市総合計画 実施計画(冊子)の以上 6 点をお持ちいただくようお願い申し上げます。不足の資料等がありましたら、お近くの事務局職員にお申し付けください。

それでは、会議次第に沿い、進行いたします。

### 2 委員の委嘱

(事務局)

はじめに、次第 2 の委員の委嘱でございますが、本日、皆様のお席に、委嘱書をお配りしてございます。委員の任期は、平成 24 年 7 月 20 日から平成 26 年 7 月 19 日までの 2 年間でございます。本日は時間の都合もございまして、お一人お一人にお渡ししませんが、ご了承ください。

### 3 長野市あいさつ

(事務局)

次に、次第3の長野市あいさつを黒田和彦長野市副市長から申し上げます。

(黒田副市長)

長野市副市長の黒田と申します。4月から副市長を務めさせていただいております。よろしくお願いたします。

鷺澤市長は他の公務がありますので、代わりまして、私からごあいさつをさせていただきます。

本日は、長野市総合計画審議会を開催いたしましたところ、ご多忙の中、ご出席をいただき誠にありがとうございます。

今ほど、委員の皆さまには委嘱書をお渡しさせていただきました。これより、平成26年7月19日まで、長野市総合計画審議会委員として、長野市が取り組むまちづくりについて、忌憚のないご意見をいただきますようお願いするとともに、様々な立場からの活発な議論を期待いたします。どうぞよろしくお願いたします。

さて、今、社会は、予想以上のペースで少子高齢化と人口減少が進んでいます。長野県内においては、平成13年の222万人をピークに人口減少局面に入り、直近の国勢調査結果をみますと、平成22年の人口は、215万人余でしたが、20年後の平成42年には、184万人余と、約30万人減少することが見込まれています。

本市の状況について国勢調査の結果をみますと、平成12年の38万7,911人をピークに人口減少局面に入り、平成22年の人口は、38万1,511人で、この10年で6,400人減少しました。本市の人口推計では、20年後の平成42年の人口は、33万5,000人余と、現在より、さらに約4万6,000人余の減少を見込んでいます。これは、篠ノ井地区が約4万人です。篠ノ井地区全体以上の人口がこの20年で減少するという事です。

本市域の4分の3を占める中山間地域では、過疎化が一層進行するとともに、生産年齢人口の減少により、今後は地域社会をどう維持・存続していくかという、大きな課題が目の前にあります。

日本全体でみても、国と地方を合わせて900兆円を超える借金があります。そういった中で、現在の医療、介護、年金という社会保障制度をどうやって維持していくのか、安心して暮らせる社会をどうやって作っていくのかということと、一方で、日本の価値をどうやって維持していくのか、高めていくのかということが大きな課題になっています。これは、長野市においても同じことだと思っています。

私は、よく金太郎の例え話を使って、「気は優しくて力持ちなまちをつくる」ということを言います。気が優しいとは、安心・安全なまちのこと。力持ちとは、活力のあるまちのことです。こうしたまちを、どうやってつくっていくかということに、まちづくりの大きな目的があると考えています。

こうした状況を踏まえ、今年1月に、本審議会の答申をもとに、「第四次長野市総合計画後期基本計画」を策定しました。後期基本計画では、「市民と行政が協働し、『自分たちの地域は自分たちでつくる』という都市内分権の理念の下、持続・発展する地域社会を実現し、長野市の存在感を高める」ことを目標として掲げています。

平成27年(2015年)は長野新幹線が金沢まで延伸されるとともに、善光寺御開帳もあり、本市の存在感を高める好機と考えています。この好機を逃すことなく、国内外から人を引き寄せ、まち全体の活力を高め、魅力あるまちにしていきたいと考えています。委員の皆様におかれましては、お忙しい中とは思いますが、長野市が魅力ある、希望あふれるまちになるよう、大所高所からご指導を賜りますことをお願い申し上げ、あいさついたします。

#### 4 自己紹介

(事務局)

次に、次第4の自己紹介に移ります。

会議資料集の9ページをご覧ください。ご覧のページに、今回、委員を委嘱しました皆様の名簿を掲載しております。大変お手数ですが、名簿の順に、自己紹介をお願いいたします。

##### ー 長野市総合計画審議会委員 自己紹介 ー

(事務局)

ありがとうございました。

続きまして、長野市職員をご紹介申し上げます。会議資料集の10ページをご覧ください。ご覧のページに、長野市部局長の名簿を掲載していますが、本日、出席の部局長について、名簿の順に、自己紹介をお願いいたします。

##### ー 長野市部局長 自己紹介 ー

(事務局)

ありがとうございました。

続きまして、総合計画審議会の事務局を担当します企画課職員をご紹介申し上げます。

##### ー 事務局(長野市企画課)職員 自己紹介 ー

(事務局)

以上で、自己紹介を終わります。

## 5 会長、副会長の選出

(事務局)

次に、会長、副会長の選出を行います。

本日の会議資料集の1ページをご覧ください。ご覧のページに長野市総合計画審議会条例がございます。

第5条 会長、副会長の条文をご覧ください。第5条では、「審議会に、会長及び副会長各1人を置き、委員の互選によりこれを定める。」としております。

会長、副会長の選出につきまして、ご意見のある方がいらっしゃれば、挙手願います。

(谷委員)

今回の審議会の委員には、第四次長野市総合計画後期基本計画を策定した際に、本審議会の会長を務められた藤沢謙一郎さんと、副会長を務められた小林玲子さんがいらっしゃいます。

お二人に引き続き正副会長を務めていただきたいと思います。

(事務局)

今、谷委員から、藤沢謙一郎委員に会長を、小林玲子委員に副会長を引き続き務めていただきたい、とのご発言をいただきました。

ほかにごございますでしょうか。

**【意見なし】**

それでは、お諮りいたします。

会長に藤沢謙一郎委員、副会長に小林玲子委員とすることで、ご異議ございませんか。

**【異議なし】**

ありがとうございました。

それでは、会長に選出されました藤沢謙一郎さんと副会長に選出されました小林玲子さんには、大変お手数ですが、会長席、副会長席へそれぞれご移動をお願いいたします。

## 6 会長、副会長あいさつ

(事務局)

次第6の会長、副会長あいさつに移ります。

はじめに藤沢謙一郎会長からご挨拶をお願いいたします。

(藤沢会長)

ただ今、会長にご指名をいただきました、藤沢でございます。よろしくお願いいたします。

後期基本計画の策定に向け、これまで2年間、本審議会の会長を務めてまいりましたが、引き続き会長を務めることとなりました。

本審議会は、長野市の最上位方針である長野市総合計画に関する事項について調査及び審議することが任務であります。

新しい任期が始まったわけですが、委員の皆様を見ますと、後期基本計画の策定に携わった方が7名、新たに委員としてお迎えした方が8名います。

それぞれの分野でご活躍の皆様にお集まりいただきましたので、様々な立場や視点から意見交換しながら、長野市発展のために、ご尽力を賜りたいと考えています。

よろしくお願いいたします。

(事務局)

ありがとうございました。次に小林玲子副会長からご挨拶をお願いいたします。

(小林副会長)

ただ今、副会長に就任いたしました長野郷土史研究会の小林玲子でございます。よろしくお願いいたします。

私も、藤沢会長と共に2年間、後期基本計画の策定に携わってきました。今日は新しいメンバーの皆様にもお入りいただき、新たな思いでこの場に立たせていただいております。

藤沢会長を補佐しながら、皆様とともに議論し、力を尽くしたいと思います。

よろしくお願いいたします。

(事務局)

ありがとうございました。

それでは、これから、本日の議事に入ります。ここで大変申し訳ございませんが、黒田副市長につきましては、次の公務があるため、退席させていただきますが、ご了承ください。

それでは、審議に移らせていただきますが、議長につきましては、長野市総合計画審議会条例第6条の規定により、藤沢会長をお願いいたします。

なお、審議の時間でございますが、事務局としましては午後5時をめぐりにお願いしたいと思っておりますので、ご協力をお願いいたします。

また、議事において、委員の皆様が発言される場合は、お手数ですが、挙手していただき、議長の指名でお手元にマイクをお持ちしますので、お名前をおっしゃってから、お座りになったまま発言することをお願いしたいと思います。

それでは、議事の進行をお願いいたします。

## 7 議 事

(藤沢会長)

それでは、次第に従い、本日の議事を進行してまいります。

(1) から (4) の内容であります。総合計画審議会の役割や総合計画の概略の説明となりますので、事務局から一括して説明してください。

(事務局)

平成24年度 第2回長野市総合計画審議会 資料集の1ページをご覧ください。

### － 資料に基づき説明 －

(藤沢会長)

ありがとうございました。

事務局から総合計画とはどういうものなのか、全体がわかるよう、概略を説明してもらいました。

資料につきましては、膨大な量がありまして、会議の中で、すべてを説明することはできませんので、はじめてご覧になる委員のみなさんには、持ち帰っていただいて、内容をご覧いただき、質問等があれば、事務局に問い合わせいただければと思います。

本日の説明を受けて、委員の皆さんからご質問やご意見等があれば、お聞きしたいと思います。いかがでしょうか。

(酒井委員)

酒井です。

確認ですが、資料集8ページの第四次長野市総合計画と後期基本計画の将来人口の数字と、概要版11ページの定住人口の数字が違っているのですが、どういうことでしょうか。

平成22年の実績値が、資料集では374,300人で、概要版では381,511人となっています。平成28年の推計値が、資料集では364,000人で、概要版では372,175人となっています。どちらが正しいのでしょうか。

(事務局)

資料集 8 ページですが、第四次長野市総合計画、それから後期基本計画にも同じ数字が入っています。

平成 17 年の数字を見ると、資料集に書かれている数字と概要版に書かれている数字に差がありますが、これは、平成 22 年に信州新町、中条村と合併をし、概要版の方には、その町村の数字を長野市の数字に加えているからです。資料集の方は、平成 19 年に第四次長野市総合計画を作成した時の数字がそのまま書かれています。

概要版が現時点での最新の数字で、信州新町、中条村と合併した後の、現在の地域での人口にすべて置き換えられています。

また、平成 22 年の数字も、概要版の方は、平成 22 年に出た最新の国勢調査の数字を使っていますが、資料集の方は、その前の平成 17 年の国勢調査の数字をベースに計算しているため、その辺での違いもあります。

(酒井委員)

ありがとうございます。

もう 1 点ですが、私がたまたま三輪に住んでいて関心があるのですが、県短の 4 年制化についてお聞きしたいと思います。

長野市の中でまだ表に出ないのか、私たちが知らないのか、ニュースが少ないのか分かりませんが、4 年制大学の設置は長野市に大きなインパクトを与えたいと思います。

総合計画の重点施策に合うのかどうか分かりませんが、少なからずインパクトを与えていくものだと思います。

この審議会で議論するのが良いのか分かりませんが、大事なことだと思いますので、是非ご説明いただきたいと思います。

(藤沢会長)

県立 4 年制大学の設置に関わるいろいろな動きがあると思いますが、それに対して長野市がどういう考えを持っているか、説明していただきたいと思います。

(柳沢企画政策部長)

県短の 4 年制化については、昭和 50 年頃から、長野市は県へ要望しており、市にとっては長年の課題となります。平成 22 年 2 月には、県がようやく 4 年制大学の設置に向けて検討委員会を設けて、議論が始まりました。

今年度になって、県立大学設立準備委員会ができて、この中で基本構想等について、協議をいただいているところです。この委員会には、長野市から黒田副市長がオブザーバーという形で参加させていただいていますが、長野市にとっては地域の活性化のため

に、大学の設置により若者が街の中にいるということは、非常に効果があることだと考えています。

長野市として、設置場所については三輪の本校部分を基本に考えていますが、4年制になると、単純に考えて定員が2倍になりますので、三輪の他に、敷地で足りない分があれば、用地の提供を含めて支援をしていきたいと考えています。

学部・学科等についても現在は検討中です。長野市としては、市内に魅力ある立派な大学ができることを望んでいます。

そのために、市では約13億円の基金を積み立ててまいりましたので、その基金を活用しながら、大学設置が進むよう県にいろいろなお話をしていくということです。

総合計画の重点施策では、県短の4年制化は県の事業であるため、直接的な形で重点施策には載っていません。

ただ、施策の中では、概要版4ページに基本施策411「魅力ある教育の推進」というものがあり、大学や専門学校等の、高等教育機関との連携により、高等教育を受ける機会の充実を図ると共に、高等教育機関の地域への貢献を促進しますといった取組を掲げています。

(藤沢会長)

県立大学なので、事業主体は県ですが、長野市の将来のまちづくりと大きく関わるものなので、市の関与の仕方としては今のよう形で進めていくということです。総合計画そのものも、時代の変化の中で柔軟に対応していくべきだと思いますが、大学の問題はかなり早いスピードで動いているのも事実です。

市の財産として進めていくということになれば、大きな投資ですので、そういうことを踏まえた上で、対応していただきたいと思っています。

(酒井委員)

一昨日の信毎の中に、設立準備委員会が開かれて、県の予定した内容が決まらなかったという記事がありました。

長野市では、10数億円が用意されていて、相応の協力をしていくというスタンスです。

昔、自分たちが青年会議所にいた頃から、県短の4年制化については要望してきたのですが、私個人として気になるのは、秋田の国際教養大学を模範として、中嶋先生の考えを基に学部・学科を設置するという話です。

素晴らしい人材を養成していて、就職率もほぼ100%ということですが、実際、秋田にどのくらいの学生が残っているのでしょうか。グローバルな人材を育てるということで、卒業生全員が世界に出て行ってしまったら、秋田のために本当に良かったのかということになります。

県税を使って、4年間の学生生活により、アパートが少し潤ったのか、地域が潤ったのか、それは分かりませんが、そのために教育があるのではなく、将来を担う地域の人材を



育てるといふ部分が大学としては必要なのではないかと、ということが気になっています。そのために、長野地域の産業構造に触れるような学部・学科を議論していただかないといけないと思います。

中南信の経済界の人たちから、こういう学科は作ってもらっては困るとか、こういうものを作ってほしいという話が、新聞の記事として出てくるということは、関心度が長野市よりも中南信の方が強いということではないかと感じています。

長野市がどういうものを求めていくのかということ、県に対して強く出していくべきなのではないかと思ひます。私は、非常に大事なことだと思ひます。長野の将来の人材を育成し、長野市の将来の産業が変わっていく、または新たな産業を作っていくというような学部・学科があつても良いのではないかと思ひます。そういった議論も含めて、県にお話いただければと思ひます。

(藤沢会長)

総合計画審議会では、こうしようということとは言えませんが、今の話を受けて、企画政策部長から話をしてもらつた経緯もありますので、今のご意見も勘案しながら、市としてこれからも対応をお願いしたいと思ひます。

(柳沢企画政策部長)

今、酒井委員さんからお話がありましたように、私たちが同じような気持ちでおります。県に対しては、いろいろな機会に意見を申し上げたり、要望を申し上げたりしていますので、その中で十分お伝えしていきたいと思ひます。

(北村委員)

北村です。

要望なのですが、「魅力ある教育の推進」に関するところで、いじめの問題を見ても、先生がまだ先生でないというか、幼すぎる先生がいます。

長野市は、「魅力ある教育の推進」とうたっているのですが、できれば子どもたちが本当に学びたいと思える環境を作っていただきたいと思ひます。

先生の質がだんだん下がってきていますし、勉強に意欲がない子どもが出てきています。30人学級になっていることによって、手厚い指導はできるはずなのですが、中間層以下の子どもたちの底上げをしてもらえるような教育をしていただかないと、せつかく近くに市立の高校ができて、なかなか入れず、結局違う学校に行かなくてはいけないという現状もあります。

また、いじめに対する認知度が先生によって全然違ひます。あまりにも違ひすぎて不登校になってしまった子どもたちを何人も見ているので、その辺も施策の中に入れていただければ有難いと思ひます。

(三井教育次長)

今の北村委員のご指摘は、私どもも感じております。最近の事例をみましても、教員の質という部分で憂慮すべき事態だと思っています。

総合計画の中では、「魅力ある教育の推進」の中で、施策として「小・中学校の教育の充実」を掲げております。

総合計画の冊子の 87 ページをご覧ください。施策 411-02「小・中学校の教育の充実」について触れています。主な取組の 2 番目ですが、「教職員研修や研究の充実により、教職員の資質・能力の向上を図り、児童・生徒や保護者から、より一層信頼される教職員を養成します。」という項目を出しております。

それを具体化するために、総合計画の教育分野の計画ということで、本年度よりスタートしていますが、教育振興基本計画というものを教育委員会では策定をいたしました。その中で、一番の重点として、教職員研修の充実ということを掲げております。

長野市は中核市として、通常他の市では持っていない、教職員の研修を独自にできるという権限を持っています。今も取り組んでいます。それをさらに充実させて、教職員の資質を向上させることを一番の施策に掲げています。

教育振興基本計画も、期間は総合計画の後期基本計画と同じで、平成 24 年度から 28 年度の 5 年間となり、具体的には、教育振興基本計画の中で立てたことを、各年次進めていきたいと考えています。

今の北村委員のご指摘は、非常に重要な問題と受け止めて取り組んでいきたいと考えております。

(藤沢会長)

総合計画は、長野市の最上位方針ですが、教育分野には、教育振興基本計画が策定されています。形骸化されることなく、それぞれの事業が、どのような成果を上げてきているかが大事だと思います。

今のご意見に対しては、それぞれの部局で、個別の計画を踏まえてお願いしたいと思います。

(大日方委員)

NPO 法人まめってえ鬼無里の大日方です。

昨年 3. 11 以降、急激な社会の変化を感じています。

東日本大震災以前から、地球全体の課題として地球温暖化がありました。それを防ぐためには、化石燃料依存文明から脱却しなくてはならないと言われ、それぞれの国や自治体で取り組み始めていました。そして昨年 3. 11 に、福島第一原子力発電所の事故が起きました。

私の認識では、原子力エネルギーは人類が地球上で使うべきエネルギーではないと思います。自然法則が全く違うミクロの世界から取り出してきたエネルギーですので、人類が制御できるエネルギーではありません。ところが、安くてCO2を出さないことを理由に、この原子力エネルギーを地球上で使用してしまった結果、取り返しのつかない事故が起きました。これからは自然エネルギーに大きく切り替えていかななくてはならないことに気付かされました。

長野県の場合を考えますと、飯田市が太陽光発電に取り組んでいて、成果をあげつつあるという印象があります。県庁所在地である長野市は、自然エネルギーに向けてどのような路線をいくのかご意見を伺いたいと思います。

(小林環境部長)

今のお話のとおり、3・11以降、市民の方等からの問い合わせの内容も変わってきています。

特に、温暖化の部分では、長野市環境基本計画を定めていて、基本計画に基づく施策を、どのような形で進めるかという詳細版を作成しています。温暖化の防止対策についても定めまして、いろいろな取組をしています。

一般市民向けの太陽光発電については、平成11年度から補助制度を設けています。現在は、メガソーラー17基分にあたる17,500KWの各家庭への補助を行っています。

長野市の地域、地形をみた場合、どんな再生エネルギーが一番適しているのかという調査を進めています。よく言われるのが、長野、栃木、新潟が、地形や水量から言って、小水力発電に適しているということです。

風力発電についても、長野市内で、設置に対する効果を踏まえて調査をしました。参考までに、風力発電に関しては、市内で風が一番強いと言われている戸隠高原でも、設置した費用を回収するのに必要な風を10とすれば、4ぐらいの風しか吹かないということなので、風力発電は難しいかと思います。

水力発電に関しては、県の補助を受けて、鬼無里で地元の方が、野生鳥獣対策のための電気柵の電源として、河川で水車を回して発電しているという事例があります。

長野市では、大岡で落差を利用して水車を回し、大岡小・中学校の電力の1/2ぐらいを賄える電力の発電を実施しています。

先ほど言いましたように、太陽光発電については、3・11以降、急速に申請者が増えています。今年度も、1億5千万円あまりの予算をつけているのですが、この4ヶ月間で6割から7割消化していますので、改めて補正予算により予算計上して、一層推進していきたいと思っています。

合わせて太陽熱を利用したものや、間伐材を使ってペレット化したペレットストーブの補助や、保科温泉のボイラーについてもペレットボイラーを入れて、普及のPRを兼ねて、再生可能エネルギーの活用に努めているところです。

バイオマス発電についても、いろいろな事業所の方からの提案もありますし、長野市としても研究しています。

メガソーラーに関しても、複数の方から長野市に設置できないのかという要請があり、条件に合う所をピックアップしたのですが、長野市がメガソーラーに適さない理由として、積雪があることと、1MWあたり1.5haが必要なのですが、長野市でそれを確保するには、農地か山間地の斜面になってしまうということです。

斜面になると、段差を付けてパネルを設置することになりますので、設置経費がものすごく掛かり、なおかつ雪が降るので、雪の対策も必要です。さらに、送電線が近くにないと、そこまで引っ張ってくる経費が掛かってしまう等々の問題があります。複数社から長野市での設置の構想がありましたが、現実的には困難という状況です。

県でも、長野市の持っている土地で設置はできないかと調査をし、1ヶ所提案をしましたが、計画を実施したいと手を挙げた方はいませんでした。

今後も市民の方が行う再生エネルギーの利用や、事業者に対しても様々な面で支援していきたいと思っています。

(藤沢会長)

今、委員の方々が関心を持っていることについてお話を聞くと、現在も市で取り組んでいることだと思います。しかし、大きな都市になると、市が取り組んでいることが見えにくくなるのではないかと思います。

これから、市民と行政が協働してまちづくりをしていく上で、非常に大きな問題になると思いますが、どのようにやっていくかということが大事だと思います。

それでは、議事(1)から(4)までの内容については、以上にしたいと思います。

次に、議事(5)「第四次長野市総合計画 前期基本計画 実施状況について」、事務局から説明してください。

(事務局)

第四次長野市総合計画 前期基本計画実施状況(報告)の1ページをご覧ください。

## － 資料に基づき説明 －

(藤沢会長)

ありがとうございました。

事務局から、第四次長野市総合計画 前期基本計画 実施状況について、報告がありました。

前期基本計画では、基本施策ごとに43のアンケート指標を設定するとともに、101の施策に159の指標を設定しました。これらの指標の結果をもとに、実施状況をまとめ

た結果について、報告がありました。

ただいまの事務局からの説明について、ご意見やご質問等があれば、ご発言ください。

(宮下委員)

宮下です。よろしくお願いします。

指標について、率直な疑問があるのですが、例えば重点施策の中の「交通体系の整備」は目標値が25%～50%となっています。

重点施策だけ目標値が低い気がするのですが、目標値の設定の仕方をお聞きしたいと思います。

(事務局)

目標値の設定の仕方ですが、第四次長野市総合計画 後期基本計画の冊子の172ページをご覧ください。

現状値を4つに分け、少なくとも1つ上位の区分を目指すように目標を設定しています。

現状値が25%未満だった場合、5年後の目標値は1つ上の区分である25～50%に設定しています。同じように、現状値が25%以上～50%未満だった場合は、目標値を50～70%に設定しています。

(宮下委員)

ありがとうございました。

(中村委員)

中村です。よろしくお願いします。

5ページの【表8】に産業・経済分野「豊かな森林づくりと林業の振興」という基本施策がありますが、行われているわりには、山が荒れてしまっています。

以前、市に質問した時には、「所有者がいる山なので、市で立ち入ることはできない」と言われました。

指標だけ見れば良い指標で、有効活用されている反面、荒れてしまっている所もあるのですが、そのことについてはどうお考えですか。

(小林環境部長)

先月始まった、再生可能エネルギーの固定価格買取制度に伴い、太陽光等、自然エネルギーを使った発電が事業になるということで、それをきっかけに見直しを図っています。今まで放置されていた間伐材や、野放しの山から木を切り出すような動きも少しずつあると聞いています。

今まで荒れていた山林等の整備が進み、それに対する事業についても、例えばバイオマ

ス発電に伴うさまざまな手続き等について環境部が間に入り、より短時間での申請、あるいは県との調整を行います。

森林そのものの整備の関係については、農林部からお答えします。

(片桐農林部次長)

今ご質問のあった「豊かな森林づくりと林業の振興」については、13%ともともと満足度が低い施策になります。3.5%上昇したといっても、中村委員さんがおっしゃったとおり荒れている印象がある状況だと思います。

農林部では、個人での間伐に対しても補助に取り組んでいます。所有者が分からなくなっている森林もありますが、調査をして、一括してある程度の面積で間伐をやろうということも進めていますので、荒れているのは事実ですが、徐々に何とかしていきたいと考えています。

(藤沢会長)

まだご発言していない方、いかがでしょうか。

(市川委員)

中山間地域では、山林が荒れてきていることが原因で、農地を作りたくても、その周辺が荒れているので、農地も荒れてしまう結果となっています。対策について、所有者と話してもうまくいかず、農地は荒れ放題になっていくのが実情です。

対策について、ご指導をお願いします。

(藤沢会長)

中山間地域の問題は、総合計画の中でも重点的な課題としてあるので、ご質問に対して何かありましたらお願いします。

(片桐農林部次長)

農地がだんだん原野になって、最終的には自然に戻っていくという状況の中で、有害鳥獣がそこに出没して、その隣接する土地で育てている農作物を荒らすという具体的な被害が多く出ています。

森林整備課では、有害鳥獣が農地の方に入ってこないように緩衝帯をつくるという事業をやっています。あとは、電気柵も設置しています。

農業委員会でも考えており、耕作放棄されて原野化している農地に関しては、もう農地としての扱いをしない方が良いのではないかと考えています。農地としておくと、いろいろな制約がかかり、土地の売買ができない等の問題があります。

中山間地域では、問題が深刻化しているので、何らかの対策を考える必要があるのです

が、まだ対処的な政策しかとれていないのが現実です。

(市川委員)

市には、やまざと支援事業という制度がありますが、大きな地域には対応できるものではありません。耕作放棄地については、放置するわけにはいかないのが、市としてやまざと支援事業にもう少し力を入れていただければありがたいと思います。

(西沢地域振興部長)

中山間地域支援事業というものをやらせていただけていますが、中山間地域の13地区それぞれに個別の課題があります。地域活性化推進員を置いて、その方を中心に住民自治協議会の皆さんと一緒に、それぞれの課題を整理し、解決に向け取り組んでいただくことが事業の目的です。そのきっかけになるお金に相当しているのが現実ですが、もっと本格的に取り組まなければいけないとなると、農林部等の話になるので、それらも含めて今後整理しながら、お互いが良い方向に進むよう頑張っていければと思います。

中山間地域の活性化は、大きな課題ですので、本市としても今年度から副市長プロジェクトとして立ち上げて、市として取り組むことを確認していますので、もうしばらくお時間をいただければと思います。

(市川委員)

個人的なやり取りで申し訳ありませんが、今年も地域活性化推進員を置いていただきありがとうございます。

4月から活動していただけていて、区の役をしたり、いろいろな相談に乗っていただいています。昨年は、行政からの派遣でしたが、今年は、住民自治協議会での雇用としていただきました。

今後も、地域活性化推進員には大いに活動していただき、住民自治協議会として住民のお役に立てるよう頑張っていきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

(宮前委員)

宮前と申します。

人口減少を見越している中で、人口を減らさない計画も必要だと思っています。

県では、移住・交流促進を今年度から始めていて、長野市でも、そういった取組が必要だと思うのですが、今後どのように取り組まれる予定かお聞きしたいと思います。

(事務局)

現在、長野県では、首都圏から移住をしてもらうための情報提供をしたり、相談の窓口を作ろうということで、観光部が中心となって、観光の一環として取り組んでいます。

県内の市町村でも、飯山市等、市役所の課の名前に「移住促進」といった言葉をストレートにつけているところもありますが、長野市はそういう形にはなっていません。

長野市の場合、市営住宅を作っているのは住宅課で、比較的低所得者向けの住宅を作っていますが、移住をメインにやっという政策の市町村の場合には、公営住宅を管理しているところが移住促進課になっていたりします。

今まで長野市では、首都圏からの移住を促進しようという取組はしてきませんでした。基本的には、現在長野市に住んでいる人にとって住みやすいまちづくりをすることで魅力が高まれば、また長野市に戻ってきてくれる、またはIターンで移ってきてくれるという考え方でおります。

(宮前委員)

今住んでいる方の住みやすさを高めることも大事だと思いますが、どんどん魅力を高めて呼び込むという方向も今後必要なのではないかと思います。

(藤沢会長)

他にどうでしょうか。

特にご意見等がないようであれば、議事(5)「第四次長野市総合計画 前期基本計画 実施状況について」は、以上にしたいと思います。

## 8 その他

(藤沢会長)

議事については、以上で終わりましたが、引き続き、8「その他」(1)「意見交換」に移りたいと思います。

会議資料が送付されたときの通知に、「委員のみなさんから、ご自身の活動のご紹介や市政への要望、まちづくりへの提言などを、一言ずつ自由にご発言いただきたい」ことのお願いがありました。

本日は、委員改選後のはじめての会議でありますので、自己紹介も兼ね、みなさんが参加しているまちづくり活動や長野市がこのような町になって欲しいなどのお話がありましたら、自由にご発言をいただければと思います。

本日の会議は5時を終了予定としていますので、発言の時間等については、お一人3分以内で、ご配慮いただければと思います。

それでは、本日まだ発言されていない方から順番にお願いいたします。

(猪俣委員)

私は、消防団という立場でおります。緊急の場合、災害の場合、我々は消防団という立



場で活動しています。

長野市の消防団は、平成 17 年の合併、平成 22 年の合併を経て、副団長が 12 名という大きな組織になりました。今年から組織変えをして、団長の下に副団長を 4 名置き、その下に方面隊という組織を作って、災害があった場合、すぐに対応できるようにしました。

4 月から始まったところで、課題もありますが、1 つずつ解決しながら、長野市のため活動していきたいと思います。団員が減少しているので、補充のことも考えながら、1 つずつ改革していこうと動いていますので、よろしくお願いします。

(内山委員)

昨年、櫻ヶ岡中学校の P T A 会長を務めていたのですが、末の娘が卒業したので、現在は義務教育には携わっていません。今は、芹田地区で子育て広場や、子育てサークルといった、子育て・子育ての支援をさせていただいております。

この頃のお子さんのお名前はとても難しく、仮名が振っていないと読めないことがあるので、最近の楽しみは漢和辞典を読んで、漢字の成り立ちや意味を知ることです。ちなみに、咲子の咲という字には、もともと笑うという意味があるそうです。そんなことを知っただけでも嬉しいのですが、そういった感じで子どもと関わりながら、漢字という趣味を広げています。

基本は、子育て・子育てに関わるお母さんやお子さんたちを中心に、見守り、考えていきたいと思っています。

(島田委員)

先ほども、人口減少や中山間地域の発展についてお話がありましたが、長野市の人口減少は、主に中山間地域と中心部になると思います。私は飯綱町出身なのですが、中山間地域には、特に若者にとって働く場所がないという問題があると思い、こういった対策ができるのか個人的に考えてみました。

先日、小谷村の友人から、雨飾山の登山祭に誘われて行った時に、村外から移住してきた若者がたくさんいることに驚きました。どうして小谷村に移住したのかお聞きしたところ、小谷村には、まちづくり協力隊という移住促進事業があり、それに応募した方が多くいました。

その方たちは、移住してくる前は、青年海外協力隊に行っていたようで、小谷村では、青年海外協力隊の期間が終わる時期に向けて「小谷村に移住しませんか」ということを発信しているそうです。そういった取組を知って感心しました。

小谷村は、人口減少が全国ワースト 10 に入るほどの地域なので、そういった所がどんな取組をしているか調べるのも参考になると思いました。よろしくお願いします。

(高木委員)

昨年、長野青年会議所で、信州里山塾というものを運営させていただき、小田切地区の住民自治協議会の皆様のご協力を得て、小学生の親子を対象に、農業体験と環境プログラムを入れ込んだ事業を行いました。私は安茂里に住んでいるので、小田切は近いのですが、小田切で起こっている問題は、実際に行ってみないと分からないということを実感しました。

また昨日は、長野駅の善光寺口利活用ネットワークというものが設立され、そこにも所属させていただいています。今までは、行政主体で行っていたのを、市民の有志、団体企業、NPO法人など、市民が主体となって動いて、善光寺口の利活用をしていこうという団体です。

これからは、行政の皆さんだけでなく、私たち市民が共に協力して、長野のまちづくりを行っていきたいと思っていますので、よろしくお願いします。

(谷委員)

実は、第四次長野市総合計画の後期基本計画に該当することではなく、第五次総合計画に入れ込むことなのかと考えていることがあります。それは、日赤病院の新築移転の件です。

今まで日赤病院でも検討してきた経過があり、やっとな案がまとまって、まだ市民の方にはオープンにしていますが、懇話会の中ではオープンになっています。日赤病院は老朽化していて、今の最新の医療技術に対応できる病院ではなく、医療提供体制の整備に引かかる可能性があります。市民病院と比べると非常に遅れています。

実は、日赤病院のプロジェクトでは、今の場所に建て替えるために、まず駐車場に病棟を建ててから、今の病棟を取り壊すという、非常にお金と時間がかかるやり方しかできないのではないかという結論です。

市が支援をするような体制はできないのかというのが、私の要望です。ただ、第四次の計画を作る時は、病院側にそういう考え方がなかったので、これは第五次に入れ込むことなのかと思っています。病院は、最終目標年度は決めているようです。

医療圏というのは、テリトリーがある程度決まっていて、今の場所からあまり遠くない所に作るのが患者さんにとって良いのです。北の方には市民病院があり、川の向こうには篠ノ井病院、松代病院があるので、日赤病院は中心地で医療を継続していくのが、患者さんにとっても一番良いと思います。

私は、市の方で支援をしてくだされれば、新しい病院が比較的早くできると思います。ただ、これは第四次ではなく第五次の計画だと思ったので、この話をこの場で出して良いのかどうなのかずっと考えていましたが、出させていただきました。

(藤本委員)

先約がありまして、遅れてしまったことをお詫び申し上げます。

私は、社会福祉法人円福会の理事長をしております。社会福祉法人といっても、いろいろな施設がありますが、私の場合は児童養護施設を経営しています。長野市とは、ショーティストレイ等の関係でいろいろな関わりがあります。

12基本施策の中では、「次世代を担う人づくり」というのが、一番自分に関係があるかと思っています。私は、こういった大きな会議の委員になるのは初めてですので、一生懸命勉強させていただいて、私自身篠ノ井の横田という農村地に住んでいますので、そういった生活の中での人々との関わり等をいかしながら、いろいろなお話をさせていただければと思います。よろしくお願いします。

(小林副会長)

小林でございます。

私は、長野郷土史研究会という立場で活動していて、歴史が中心ですが、最近は「まちづくりは郷土史から」というテーマを掲げてやっています。まさにこのような会議に出させていただいて、さまざまな分野の皆様のご発言をお聞きしながら、大変勉強させていただいているところです。

とりわけ、子どもたちに、長野の歴史というものを広めていきたいと強く思っています。

皆様一人一人が、深い思いをお持ちなので、限られた時間の中で議論を深めていくというのは大変難しいことですが、藤沢会長のお力で、今後内容を深めていければと思います。よろしくお願いします。

(藤沢会長)

改選前の審議会もそうでしたが、私自身は、せっかくおいでいただいた委員の方々から、時間の制限なく、いろいろな思いをお話いただくのが大事だと思っています。そのことをまずご確認いただいてから、会を進めて参りたいと思います。

小林副会長もおっしゃったように、メンバーの一人一人が、それぞれの場で、精力的に活動していらっしゃる方々なので、その部分は非常に意味があると思います。第四次長野市総合計画 後期基本計画は、平成24年度を初年度として実行に移されます。重点施策や個別の施策が予算付けされて、1年間、あるいは2年間展開していくわけです。それに対して、ご自分の活動の視点から、疑問に思ったことや、こうした方がいいのではないかということを提案していただかないと、審議会を開催している意味がなくなってしまいます。私たちは、計画、実行、評価をし、新しいアクションを起こして、前進していくことを前提として会議を開催していかなくてはいけないと思います。

目的のために組織を作るのではなく、組織は目的を達成するために変えられるので、私としては、皆さんの持っているいろいろな力を出していただくことに努めたいと思います。

それにつけても、会議は、長ければいいというものではないので、締めるところは締めながらいきたいと思っています。消化不良のまま会議が終わってしまった時は、それぞれ

の担当事務局や企画課にご質問いただくようお願いいたします。

以上で意見交換を終わりにしたいと思います。進行にご協力をいただきありがとうございました。進行を事務局に返します。

(事務局)

それでは、事務局から(2)「今後の予定」について、ご説明いたします。

今後の審議会の予定であります。次回は平成25年4月に開催を予定しています。開催が決まり次第、ご通知申し上げますので、ご出席いただきますようお願いいたします。

今後の予定につきましては、以上です。

全体を通じて、何かご質問やご意見があれば、お伺いしたいと思います。いかがでしょうか。

#### **【質問・意見なし】**

長時間にわたり、ありがとうございました。

以上で、平成24年度第2回長野市総合計画審議会を閉会いたします。